

足利市都市計画課 吉沢文雄

1. 足利のまちとまちづくり

栃木県足利市は、北関東の平野と山岳丘陵のへりに位置する人口約17万人のまちである。古代の頃から文化がはらけ、とくに市街地の中央部には、日本最古の大学と伝えられる「足利学校」と、足利尊氏公卿の「ばん阿寺」の国史跡が現存する歴史のまちである。また首都東京から直線と北北西へ約80kmという恵まれた地勢によって、商工業ともに活発で、近代的な都市整備も盛んに行われている。

足利は従前からまち固有の自然、風土、歴史、文化などに根ざす総合的なまちづくりのための「特色あるまちづくり」を進めている。そしてとくに、都市デザイン、市民文化の向上、歴史的環境の保存と創出などを骨子とした足利の顔づくりを行っている。なかでも代表的な顔のひとつ、「足利学校」周辺は、国土庁補助の「伝統的文化都市環境保存地区整備事業(昭54~55)」により、歴史的景観を醸成するための道路整備等をすでに行なった。(写真1のとおり)。また昭和55年以降は、「都市デザイン委員会」を組織して、旧市内を中心に12地区のデザインゾーンとその具現化策、緑の軸線構想など、新しい時代に向けての足利らしさを創出する手法を検討した。ふりて、公共施設の色彩配慮や調和のためのカラーポリシー、公共施設に文化性を付与、導入するためのシステムなども稼働している。

このように、個性豊かなまちづくりが進むなかで、市民にとって、また国民の宝としての「足利学校・ばん阿寺」周辺を、ゆとりと風格ある歴史的地区として整備・創出するため、従来のまちづくり諸活動の積み重ねの上にたって、昭和57年からは「歴史的地区環境整備事業(建設省補助)」を中核とする諸施策を推進している。

2. 地区整備の考え方

この整備の特色は、足利学校・ばん阿寺への道すじ整備を軸に、歴史的環境の保全と活用、ゆとりある生活環境と沿道の景観づくり、地区内交通の円滑な処理などをめざしている。そこで、計画区域を2つの国史跡周辺約40ha(図1のとおり)と定めるなかで、区域内の10町内自治会住民などで組織された「足利学校・ばん阿寺周辺保存整備推進連絡協議会」が中心になって全体的整備計画を策定した。市長も、かねてから地域関係者の意向をふまえて実施にあたるように、と指示していたこともあってこの方式が実現した。

全体的計画の骨子は、ばん阿寺への東西南北4通りの道すじ整備とともに、足利学校と結ぶ路線整備も行いながら、風格ある地域づくりのインパクトとなるよう、



写真 1/



図 1/

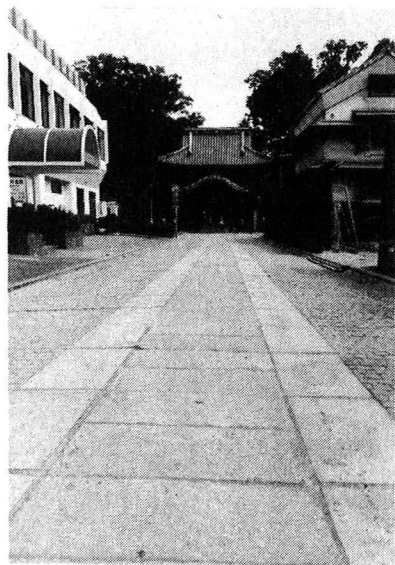
・道路面の素材は、史跡への参道にふさわしいように御影石などを工夫して使用する。

・沿道の適地には、地域住民と観光客ともども活用できる潤いあるポケットスペースを造成する。

・架線や電柱の可能な限りの除去、などを基本とした。

また、歴史的雰囲気づくりのため、沿道建物ファサードの修景、緑化の促進、地区の状況によっては土地区画整理と住居系事業の面的整備、あるいは駐車場対策などをからめながら、地域住民と行政との対話協議を基調に、軸としての道すじの実現をめざした。

写真
②



3. 歴史的 地区 環境 の 整備

＜大日 大 門 通 り＞

歴史的道すじのうち、ばん阿寺への表参道である「大日大門通り（延長約320m）」が、昭和49年度末までに完成した。大日の御影石で路面パターンに変化をつけ、通過車両を入りにくくするための夜間的ハンプ、緑と石のポケットスペースとともに、景観上のポイントとなる区間の電柱撤去、配線の地中化などを行って、史跡への導入部分にふさわしい空間づくりがなされた。（完成写真②、定期図～図⑤）

なお延長の比較の長いこともあって、路面が単調にならないよう、起、承、転、結のドラマ性を盛り上げるよう工夫した。

＜大日 北 門 通 り＞

ばん阿寺へ向く北からの参道づくりも同時に進められている。目下のヒコノ最終部分の用地取得中であるが、「北門通り整備に関する委員会」を別途関係住民と組織して、比較的大い道路幅員（約8m）を生かしたコミュニティ道路的な要素をも加味した新しい形の参道づくりをねらっている。

このほか、昭和49年度の事業として、足利学校前と大日大門通りを東西に結ぶ「足利学校通り（延長約270m）」の整備に着手している。

お、お、わ り に

以上のよう、足利の歴史的地区にあっては、中世以来市民が車輪として守り伝えてきたその史跡を軸に、歴史的な都市景観の形成と、住民主体のまちづくりをめざして、道路整備をインパクトとするところのありま、ちの背景づくりを行っている。なお、公

共空間の整備だけでなく、私的空間ともいっべき沿道の建物修景についても、建物を改築する際に、店舗、民家とも、地区それぞれの特性をふまえて、雰囲気づくりのためのファサード工夫などを促進するなど、景観秩序の実をあげつつある。

地域経済の活性化が強く叫ばれる現在、ひとりとうるおいのあるまちづくりをめざして、住民主体の、地域住民と一体となった地区整備を、序々に、しめし確実に進めている。

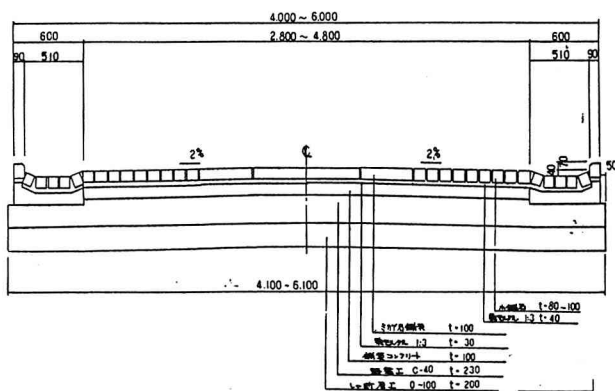


図 2